

会 議 録

会議の名称	第6回 長瀬町小中一貫教育検討委員会
開催日時	令和7年8月28日(木)午後6時00分～午後7時30分
開催場所	長瀬町役場3階 大会議室
出席者	委員11名 教育長 事務局3名
欠席者	委員4名
会議の内容	1 開会 2 教育長あいさつ 3 議事 (1) ワーキンググループ ・一貫教育で期待できることは ・長瀬町の小中一貫校の設置形態 (2) その他 4 事務連絡 5 閉会
会議の公開又は非公開	公開
非公開理由	—
傍聴人の数	5名
発言の内容	別紙「審議内容」のとおり
会議資料	・事前課題（配布済・当日持参） ・事前課題 グループ発表内容記載用
事務局	教育総務担当
会議録の作成方針	☒ 要点記録
その他の必要事項	
会議録の確定	令和7年9月9日（火）

審 議 内 容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)

1 開会

2 教育長あいさつ

井深教育長

3 議事

事務局)

それでは、次第の3の議事に入ります。

長瀬町小中一貫教育検討委員会設置条例第6条第1項の規定によりまして、議事の進行につきましては委員長となっておりますことから、野澤委員長にお願いを致します。席の移動をお願い致します。

委員長)

それではこれから私の方で議事を進めさせていただきます。

教育長からもお話しがありましたように、1年半すでに検討してきております。今日はワーキングをやる予定で進めてきてますけれども、前回の会議の時にワーキングを委員の皆様方の中で何人かをお願いしてそれで詰めていこうかというふうなことではありましたが、全体で話しをした方が良さだろうということで、今日の内容となっております。それでは、ワーキングについて事務局から説明をお願いしたいと思います。

(事務局から説明)

委員長)

ありがとうございました。只今、事務局から説明がありました。ここからグループに分かれて討議していきたいというふうに思います。余談なんですけど、小中一貫校を新しいものと思うのですが、私は三沢の出身なのですが三沢は小学校と中学校で小中一貫校なんです。グラウンドは午前中が小学校、午後は中学校が使うということで学校行事は小中一貫で、あれが小中一貫校だったんだと、結果的には同じ敷地内にありますので、5、6年生あたりになると、中学校の生徒会の方々と打合せをしながら、小学校の先生も「〇〇君、中学校の職員にこれを持って行ってくれ」と田舎ですからそういう形でやってみましたけれど、じゃあ子供の数が少なかったんだという

と、そうではなくて小学校が400人、中学校が200人そういう状況で本当に賑やかなものでした。ただ、三沢の小学校も再来年に閉校になるというふうなことでそういう意味では、今後、皆野町でもどうなっていくのか分かりませんが、子供がいなくなるということは大変だなと思いますが、いなければいいだけで質の高い教育を目指してやっていければと思います。それが今回の小中一貫校の大きなテーマなんだろうと思います。そのような私が経験した内容も踏まえながら、この地域を見ながら二つの課題について討論して頂いて、その後、発表をして頂きたいと思います。それでは宜しくお願い致します。

(1) ワーキンググループ

- ・一貫教育で期待できることは
- ・長瀬町の小中一貫校の設置形態

(グループ発表)

グループA 委員)

それではAグループの発表をさせていただきます。まず初めに、一貫教育で期待できることはなんですかということですが、でてきたのが、長瀬の自然や歴史、文化、観光などを9年間で見通した計画をたてて、そして学んでいく。ふるさと教育を充実させていくことができるのではないかとというのが一つでした。たとえばジオパークですね、ここではいろいろなものがあったり、川とか防災のところの視点とか、伝統や文化、いろいろな産業や観光など資源がありますので、SDGsとかですね観光から学んだりということで、実社会からさまざまな社会課題、地域の課題を見出して、それを解決するための活動を行っていくというのが考えられる。例えば、郷土愛ですかね、あるいは観光ですと外国語を活用しながら何か情報を発信したりとか、外国人の方にご案内など説明するちょっとしたことから上手くつなげることができるのではないかとというのが出ました。

また、その中で何か長瀬の特色を出した何々の町とか、そういったところをアピールしたところをつなげながら、地域と学校とをつなげていけば教育が充実できるんじゃないかというのが出ました。

二つ目が、小中合同で学習や行事などを実施することができる。例えば小学生と中学生と同じ建物でするので学習を一緒にしたり教えあったり、または行事を一緒にやったり、お互いの学びを高めていくことができるのではないかと、また、部活動の地域展開といったところも踏まえられるのではないかとというのも出ました。

先生方や児童生徒の交流ということで、交流ができるということで情報共有です

ね、また子どもたちが減少する先生方が少なくなる、また、専門的な部分も中学校の先生がいたりするので、フォローができるのではないかというのが出ました。

そして二つ目、長瀬町小中一貫校の設置形態、どのような形態が良いかということで、グループでは施設一体型の小中併設型、そして将来的には義務教育学校へという結論にまとまりました。まず、施設一体型にすることなんですけれども地域の保護者の理解が得やすいのではないかとということで、まず初めは小中併設という形でやることでだんだん慣れてきたら将来的に義務教育学校に切り替えるという案です。

小中が一緒になることで連携がスムーズになる。あとは情報共有は子どもたちの支援とか申し送りとか、そういったところがちゃんと繋がりがやすくなるのではないかとということ。あとはこういうところを造ることで小中が一緒になるだけではなくて先ほどの教育とかも含めて、あとは地域移行もありますけれども地域の学びの拠点といったところに繋がられるのではないかとということにまとめさせて頂きました。以上になります。

グループB 委員)

まず、一貫校で期待できることはなんですか、一つ目の一貫校で何がしたいから新しい学びの場として何ができるかを考え、活用イメージを具体化して下さい。という説明についてはですね、一人一人がまず思いを我々のグループは話しをしました。

長瀬がどういうところなのか、長瀬に生まれてどうなのか、長瀬を外から見てどうなのかと言ったときに、はっとしたのはやっぱり私たちが住んでいたりするとなかなかイメージは薄れているかもしれないけれども、皆さんも現実を見てもらえれば夏休み中にあれだけの人間がラフティングに訪れたり、カヌーを楽しんだり、ライン下りをしている。そして、毎日エベレストを登るような格好で軽登山を楽しんでいる人たちが何万人という数が長瀬に訪れるのですよね。そういうふうなことを思ったときに9年間を通して郷土のことを知らないで旅立ってもらっては困るなという思いから、やっぱり豊かな自然体験活動とか、それから郷土の学習、歴史、地質学、観光もろもろとしたものを長瀬のキーワードを通して長瀬に誇りを持てるような、そして誇りを持つ人づくりをするのがやっぱり9年間の一貫教育で一番必要なことではないんだろうか。ということをもまず4人が統一で思いました。

そういうことを簡単に言うならば、「長瀬学」というイメージとして学びをしてもらえれば9年間経ったあとに、俺は長瀬に育ってポットホールだったら、どこにポットホールがあるか分かるよとか、俺は秩父音頭を踊らせれば踊るよ、そういうふうな自分が何か長瀬に育ったことを自信を持って学び捉えて、うん蓄を語れるような人間になっていけば将来的にもまた長瀬に戻ってきてくれる。そういうふうなこ

とを見据えて、「長瀬学」をカリキュラムの中に据えていけばいいんじゃないかということを考えて。で、これを実施するには、やはり先生方にどれだけ地域社会や教育委員会ははじめ長瀬町の全員がバックアップしていくか、資源をどれだけ提供できるかというのがポイントになると思うんですよね。そういう資源提供を協力的に連携をしていくような体制をとって、「長瀬学」を進めていけばいいんじゃないかということを一時的に話し合いました。

それを受けて、二つ目の長瀬町の小中一貫の設置形態というのはズバリですね、やっぱり義務教育の要素を取り入れた小中一貫校が望ましいんじゃないか。皆さんも実際に見に行ったら同じように思った方が多かったかなと思うですけども、ズバリ坂戸の城山小中学校のあのパターンが長瀬町にはまず合っているんじゃないかなというふうなことを、そして長瀬町は細長いところですから、やっぱりそういうところで小学生と中学生と一緒に登校してくるような姿、上長瀬駅から電車を使ってくる、樋口の駅から電車を使ってくる、そういうふうな形をとるならば、やっぱり小中一貫校というのは現実、現場では長瀬中学校の敷地のところに新しい施設を設置するのが望ましいんじゃないかということで一時的なことがありました。

これも世知辛い世の中かもしれないけれども、財政面でひっ迫しているような長瀬町の中でできることはどうなのかということと考えたら、あの城山小学校のプレハブを見てもらって思ったことは、あれだけのプレハブ、あれだけのいい物ができているんだよということをこう考えれば、上手に財源を使えばこれもできるんじゃないかというふうなイメージとして捉えてきました。あとはいろいろと雑談をとしてですね、なにしろ長瀬の良さを9年間で学んでほしいよねということで話を終わりにしました。以上です。

グループC 委員)

Cグループでございますけれども、教育環境をやっている人が誰もいないという部分で保護者の立場を存分に発揮できるかどうか分かりませんが、その立場での意見交換ということでやってきました。

その中で、この長瀬らしさの関係でございまして子どもたちが長瀬について地域の方と交流し、故郷とこれを育て、守り発展させるための学習ができることを期待しているところでございます。それであと、小学生と中学生と一緒に縦割り班でのテーマを決めて深ぼりの、みんなで学習していく体験学習を兼ねた授業も必要じゃないか。それともう一つが、国際協力という部分を踏まえてツアーガイドも含めた部分で長瀬に観光に来てくれたときに、体験学習の中でそういう人たちとの交流を図るようなツアーガイドもできるような教育もやったらいいんじゃないかというこ

とでまとまりました。

それと次の二番目ですけど、小中一貫校の設置形態ということでございますけれども、今の状況の小学校と中学校と離れたままでやるんじゃないじゃなくて、一体的に考えて施設一体型での設置形態がいいんじゃないかなということで意見がまとまっているところでございます。

教育の学校の形態でございますけれども、これは義務教育学校がいいというのが、保護者の中で二人、それとスタート時点は小中一貫校ということで、それを踏まえて教育現場の先生の教育も含めて、事務局側の方も検討が必要ということで、小中一貫校でスタートし、慣れてから義務教育学校の方への変更が必要ではないですか、ということで以上とさせて頂きました。大変まとまらない説明を含めた発表ですので許して頂きながら終わりたいと思います。ありがとうございました。

委員長)

三つのグループ発表ありがとうございます。

最初のどういうことが期待できるかというふうなことなんですが、何かここで補足をする委員の皆さんいらっしゃいますか。大体の話し皆さんとも共通していました。で、「ふるさと学」とか「長瀬学」だとか、ただ、私は町民の関心をこの教育に持たせる意味では、それぞれの分野に長瀬町在住、あるいは近隣でも専門的に優れた方がいるんだろうというふうに思いますね。で、やっぱり学校を支えるというふうになことで人材バンクっていうんですかね、そういうふうな制度も作りながら、「長瀬学」、「ふるさと学」を進めいくのが宜しいのかなというふうに思います。先生はアウトドアで外のことについて非常に得意な分野を持っています。先生のような方がいっぱいいればボランティアで学校に入り込みますので、そういうふうな意味ではやはり人材バンクをここに作っていくということが前提条件で大事なのかなというふうに思っています。

それと二つ目のところでは、これ皆さん共通している話しだったですね。施設一体型で行くと、最終的には義務教育学校。その理由は、最初から義務教育学校にしちゃうという地域の方の抵抗があるだろうと、都市部だったらともかくとして、いきなりはちょっと難しいだろう。ただ、先生の話しにもありましたように、今年二つの地域地区の施設を見学させていただいたのが私も非常に良かったです。イメージが浮かびました。あの城山の学校は校長先生がお一人だったですね、基本的には義務教育学校の折衷的なところでしたね、だから、あのよう形が長瀬が始めるには良いかなというふうに、説明を聞いて中身を見てそういうふうに思いました。これがどういうふうになるか分かりませんが、おそらく今日三つのグループとも同じよう

な内容で出ていたと、最初から義務教育学校ではなくて折衷案的に一体型の小中一貫校、やがて義務教育学校というふうな流れだったんだろうというふうに思いますね。やって行く内にほかの地域でも小中一貫校ができてくるんだろうと思います。そういうふうな意味で長瀬町が先行する形の中で地域に刺激を与えていき、そういう自治体が複数できれば、意見交換をしながらより良い小中一貫校ができあがっていくんだろうというふうに思います。いずれにしても、子どもの数が少なくなる。そういうふうな中で少なくなるから先生方も定数で少なくなる。だから教育の質が下がるというのではなくて、小中一貫校にしたら、やはり長瀬は素晴らしい教育に転換しているというふうなイメージが伝わっていけばと、併せてやはりこれをしていくには長瀬町の他の自治体だとか、あるいは地域に訴えていく広報というのが必要なんだろうと思う。新聞をもっと利用する。私なんかはよく新聞を利用するんですね、ただ、困ったことに今、学生に聞くと新聞を取っている人が少ない。だから新聞の話ができない。彼らはスマホで見えていますので弱った時代だな、新聞を読むことで相当な知識がつくんですね、ニュースもあまり見ていない。どこで知識を得るかといったらスマホの中で挙がってくる箇条書きで出てるようなことを見ているその程度。大人もそういうふうになってきているのですね。これも国全体の中で質が下がってきているというふうなことは否めないだろうと思います。学校ではそういうふうなことの無いようにいろいろな情報をいろいろな人が教えていけるような、そういうシステムができればというふうに思います。

小中一貫校に私は期待をしています。このことによって長瀬が観光だけではなくて教育にも非常に力を入れているというふうなところがアピールできるような、そういう形になっていければと思います。

二番目の議題で何か補足はありますか。今日は議員も傍聴していただいてありがたいことです。町一体となってこれを作り上げていかなければならない。

8月20日に教育長と私で新町長にご挨拶を兼ねながら、この一貫校について意見交換をしました。長瀬町の最大の課題になりますということで新町長に、宜しくお願いしますというふうなご挨拶をしましたけれども、新町長も本気でやってくれると思います。

この発表頂いた内容について答申案を作成する際の参考とさせて頂きたいというふうに思います。

その他についてですが、何か委員の方から意見だとか要望とかございますでしょうか。

では議事の(2)も終了をさせて頂きたいと思います。この後は事務局にお任せしますので、宜しくお願い致します。

4 事務連絡

事務局)

皆様、ありがとうございました。

本日、書いて頂いた大きな紙、それと事前課題として出させて頂いた用紙につきましては、こちらで回収させて頂ければと思いますので、机の上に置いたままにして頂ければと思います。

次回の会議日程ですけれども、決まり次第、ご連絡させて頂ければと思いますので、宜しくお願い致します。

5 閉会

事務局)

以上をもちまして、第6回長瀬町小中一貫教育検討委員会を閉会とさせていただきます。本日はまことにありがとうございました。